

『文化財と技術』

第10号

第一部 美術と技術の歴史

- 山中 理 美術史と金属工芸
 —唐時代銀器「鍍金狩獵文六花形銀杯」の周りを廻って—
- 金 跳 咏 原三国～三国時代における鉄製刀剣の製作技術とその意味
- 吉田秀享 鍛冶作業場の推定 —二例の古代鍛冶炉から—
- 上 梶 武 日本古代の鉄鑄造と素材鉄
- 鈴木 勉 韓半島の鑄造技術と毛彫り技術から藤ノ木馬具・法隆寺へ
- 金 跳 咏 三国時代における鉄鐸の副葬と性格
- 平林大樹 根挟みを用いた後期・終末期古墳副葬矢の構造
- 姜 旼 廷 益山・笠店里古墳出土金銅飾履の復元製作研究

第二部 象嵌研究

- 鈴木 勉・金 跳 咏 威安末伊山5号墳出土象嵌鉄刀の線彫り技術
 —線彫り技術判定の基準試料の提示—
- 瀧瀬芳之 日本列島内出土象嵌遺物集成2
 —刀剣・銚・刀子編（補遺・追加）及び馬具・鏡 他編—

第三部 金石文研究

- 福井卓造 七支刀銘の「為倭王旨造」について
- 鈴木 勉 漧の技術・石刻の技術
- 鈴木 勉 會津八一先生筆色紙「心」について

第四部 復元研究

- <宮地嶽古墳出土大型頭椎大刀の復元研究>
- 鈴木 勉 復元の企画
- 鈴木 勉 復元のための調査と推定
- 藤安将平 (作刀補助：有賀一久・中西裕也 記録：金 跳 咏)
 刀身の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製鞘の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製柄の復元
- 山田 琢 金銅装の復元
- 鈴木 勉 鑄造鈴の復元

會津八一先生筆色紙「心」について

鈴木 勉



写真1 色紙「心」（裏に「安藤更生君監」の為書き）を複製した手巾

令和の最初の六月、安藤更生先生の次女天草椿氏からご連絡をいただき、色紙の裏の為書きを拝見した。そのとき、この色紙の大切さに思いが到った。

八一と安藤は、一般に師弟の関係と言われる。安藤は著書に自らを「不肖の弟子」と書く。明治四十三年九月、八一は新潟より早稲田中学校に英語教師として赴任した。安藤は大正二年四月、早稲田中学校に入学、その担任が八一であった。

その後八一は、早稲田高等学院の英語講師、早稲田大学の美術史講座の教授となり、一方、安藤は、東京外国語学校仏語部を卒業し、後に早稲田大学仏文科に入学する。八一が興した日本希臘学会（後に安藤らの発案で奈良美術研究会に改組）、東洋美術研究会（天沼俊一、浜田耕作、春山武松が参加）、木曜会などの幹事はいつも安藤が務めたという。また、「秋艸堂の玄関子たること依然たり」と安藤が自ら書くように、八一の研究生活は安藤とともにあった。

昭和二十年の空襲で万卷の書や資料の全てを焼かれた八一は、同年四月養女きい子とともに新潟丹後家に疎開した。すでに結核に冒されていたきい子はその年の七月、八一に看取られて長逝した。八一は、新潟で終生を過ごすこととなった。

安藤は、昭和二十一年家族とともに中国から帰国した。その後、八一の紹介もあって学位を取得し、早稲田大学教授となるが、新潟の八一との交流は密に続いていた。八一が個展開催など諸事の

打合せで上京すると、安藤は必ず八一の下を訪れていた。いわば安藤は八一の東京での拠り所となっていた。

安藤は、新潟秋艸堂を訪れる約束を八一と交わしていたが、なかなか果たせず、安藤の来訪を心待ちにした八一のヤキモキした様子が記された書簡（昭和二十九年）もある。そしてようやく新潟を訪れることができた安藤と談笑する姿が、写真に残されている（写真2）。

新潟の八一からの度々の安藤への書簡で、安藤は、学生や若い研究者に向けてのメッセージを託されることがしばしばであった。例えば八一コレクションの信頼性について揶揄する意見があったことは筆者も伝え聞くが、八一はそのようなことは百も承知で、

「模造品とか贋物とかいふものも標本室としては大切な材料といふ私のたてまえからいへば、悪くとも善くとも誰に恥ずべきものではないが、漫然とした骨董趣味の人々に無条件に見せるにはその辺のことは一応御注意下さい。学生に優劣や真贋を教える標本室だといふことを、終始忘れないやうにして下さい。決して骨董通の娯楽物ではありませんから。」

とのはがきを安藤に送っている。

本色紙は、安藤を新潟秋艸堂に迎えて喜ぶ八一が、為書きを添えて直接手渡したものと推測される。「安藤更生君、鑑みよ」とは「若い諸君、鑑みよ」ということ。私たちが會津八一先生に叱られた思いで、手巾の「心」^{ハンカチ}に向かって、自らの「心」を鑑みることにしたい。

<参考・引用文献>

會津蘭子編 1969『會津八一全集』中央公論社

會津八一 1984『會津八一全集』中央公論社

安藤更生 1965『書豪 會津八一』二玄社

安藤更生年譜作成委員会 1972『安藤更生年譜著作目録』

會津八一記念博物館・徳泉さち 2016『安藤更生コレクション受贈記念 會津八一と安藤更生——学藝の継承』
(文中略敬称)



写真2 會津八一と安藤更生（新潟秋艸堂にて、安藤更生著『書豪 會津八一』より）

文化財と技術 第10号

2021年 9月30日 印刷

2021年10月 1日 発行

編集 鈴木 勉
発行 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
発行所 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
東京都台東区根岸5-9-19 (〒110-0003)
印刷 千葉刑務所
千葉県千葉市若葉区貝塚町192 (〒264-8585)